

COLUMN コラム

市区町村別合計特殊出生率について

「人口動態保健所・市区町村別統計」では、人口動態統計として公表している各事象について、保健所及び市区町村ごとに、国勢調査が行われた2005年を中心とした5年間(2003年～2007年)のデータをとりまとめた。

2003年～2007年の合計特殊出生率を市区町村別に比較した場合、高い方では、鹿児島県伊仙町が2.42と最も高く、次いで鹿児

島県天城町及び同徳之島町の2.18のほか、九州地方、特に鹿児島、沖縄県内の市町村が高い出生率となっている。低い方では、東京都目黒区が最も低く0.74、次いで京都府京都市東山区、東京都中野区・渋谷区、福岡県福岡市中央区の0.75のほか、首都圏、近畿圏といった大都市部の市区町村の出生率が低くなっている。

第1-1-7図 市区町村別にみた合計特殊出生率の上位・下位10位

上位10位

	都道府県	市区町村	合計特殊出生率	15～49歳女性人口(人)
1	鹿児島県	大島郡 伊仙町	2.42	1,056
2	鹿児島県	大島郡 天城町	2.18	1,036
3	鹿児島県	大島郡 徳之島町	2.18	2,303
4	鹿児島県	大島郡 和泊町	2.15	1,163
5	岡山県	真庭市	2.10	8,299
6	長崎県	壱岐市	2.09	5,174
7	沖縄県	島尻郡 南大東村	2.06	230
8	鹿児島県	出水郡 長島町	2.05	1,924
9	熊本県	球磨郡 山江村	2.03	702
10	沖縄県	宮古島市	2.02	10,568

下位10位

	都道府県	市区町村	合計特殊出生率	15～49歳女性人口(人)
1	東京都	目黒区	0.74	69,961
2	京都府	京都市 東山区	0.75	10,483
3	東京都	中野区	0.75	78,407
4	東京都	渋谷区	0.75	53,278
5	福岡県	福岡市 中央区	0.75	51,478
6	東京都	新宿区	0.76	72,954
7	東京都	杉並区	0.78	137,042
8	大阪府	豊能郡 豊能町	0.78	4,989
9	東京都	文京区	0.80	47,940
10	東京都	武蔵野市	0.81	36,512

資料：厚生労働省「平成15年～平成19年人口動態保健所・市区町村別統計の概況」

2 | 未婚化・晩婚化の進行

未婚化の進行

婚姻件数は、第1次ベビーブーム世代が、かつて結婚適齢期といわれていた25歳前後の年齢を迎えた1970(昭和45)年から1974(昭和49)年にかけて、年間100万組を超え、婚姻率(人口千対)もおおむね10.0以上と「結

婚ブーム」を現出した。その後は、婚姻件数、婚姻率ともに低下傾向となり、1978(昭和53)年以降は年間70万組台(1987(昭和62)年のみ60万組台)で増減を繰り返しながら推移してきた。2007(平成19)年は71万9,822組(対前年比1万1,149組減)と5年ぶりに増加に転じた前年から再び減少した。婚姻率も5.7で前年の5.8から0.1下回り、「結婚ブーム」であった1970年代前半と比べると半分